

レーザー治療に関して

治療の目的

血管病変(赤み、腫瘍)や顔のしみ、あざを目立たなくするために行います。

治療の方法及び注意事項

- ・ 照射する場所にクリームもしくはテープで局所麻酔をして、1時間ほどおきます。麻酔により痛みは減りますが、完全に無痛にはできません。麻酔薬による真のアレルギー反応は極めてまれですが起こりえます。その他、血管が拡張して一時的に皮膚が赤くなることもあります。
- ・ 目を保護するゴーグルをかけていただきます。その後レーザーを照射します。
- ・ 照射後は軟膏を塗布し、テープを貼って覆います。ひりひりが強い場合は保冷剤をお貸しできるので、落ち着くまで冷やしていただけます。
- ・ 照射後は皮膚に炎症がおこるので、処方した軟膏を3～5日程度塗布してテープ(マイクログポアなど)を貼っていただきます。照射当日はひりひり感が強いときは保冷剤などで冷やしていただくと有効です。
- ・ 照射後は腫れと紫斑(内出血)、皮膚のめくれが生じます。紫斑は血管に対してレーザーが効果を発揮した証拠でもあるので、治療効果の裏返しとも言えます。皮膚のめくれも治療の効果を示しています。腫れは1週間から10日、紫斑は3～4週間続くこともあります。
- ・ レーザー照射後は日光紫外線を十分に避けてください。日光紫外線に当たるとかえって炎症後色素沈着が生じたり、色が濃くなったりすることがあります。

治療を行った場合の期待される効果と成功の可能性とそのリスク

レーザー照射にて赤みが薄くなる、腫瘍が小さくなる、しみやあざが目立たなくなることが期待されます。部位によって、または患者さんの病変の状態によって、効果に差が生じます。1回で十分な治療効果が得られることは少なく、6回以上治療が必要になることがほとんどです(一部のしみは1回から数回で効果がでることもあります)。また、血管病変は大部分の疾患で再発します。一時、十分な治療効果が得られたとしても数年後に徐々に再発することは十分想定されますので、ご注意ください。

今回のあなたの「医療のリスク」は、極小リスク(1万人に1人以下の死亡)と考えます。

予想される合併症(偶発症、後遺症)と必要な医療行為

1)腫れ、疼痛:

照射後は1週間程度腫れます。ひりひり感など痛みを伴うこともあります。照射するレーザーの強さにもよりますので、出力を下げれば、腫れも少なくなります。その代わり効果が減弱する可能性があります。

2)紫斑(内出血):

血管を破壊するレーザーゆえに、出力を上げると、紫斑が起こります。また、しみやあざの治療後にも紫斑が生じることもあります。人によって3, 4週間続くこともあります。最終的には吸収されます。

3)炎症後色素沈着:

照射後の炎症が強い場合、一時的に褐色になることがあります。いずれ薄くなり元通りになりますが、半年程度かかる場合もあります。もともと日焼けをしていたり、照射後日光にあたりやすくと特に起こりやすい現象なのでご注意ください。

4)水疱、びらん:

隆起した血管腫の場合は表面の皮膚が薄いこともあり、照射後水疱ができたり、傷ができたりすることがあります。軟膏薬で対応いたします。たいていは2, 3週間で傷は治りますが、炎症後の色素沈着がやや長く続くことがあります。

5)色素脱失(白くぬける斑)

顔のしみや茶色のあざにレーザーをすると白くなることがあります。これはどうしても正常な皮膚表面の色素もダメージを受けるからです。乳児や幼児に比較的多く、また日焼けしている時や以前紫外線を多く浴びたことがある人に起こることがあります。一時的ですので治りますが、治るまではレーザーを控えた方がいいです。何回もレーザーした後にできた白い斑は治りづらいです。

6)麻酔薬のアレルギー:

ごくまれですが、麻酔薬でアナフィラキシー(血圧が下がったり息苦しくなったり、気持ち悪くなったりする重症のアレルギー)を起こすことがあります。特に初回の麻酔中は院内で待機していただくようお願いします。

7)その他

- ・**薬剤の副作用・アレルギー:**麻酔のクリーム、テープでもごくまれにアレルギーを起こすことがあります。軽症ではかぶれのように発赤する程度です。頻度は少ないですが、重症のアレルギーとして、アナフィラキシーも起こりえます。重症の場合、呼吸苦や血圧低下を伴い、無治療では死に至ることもあります。緊急の対応が必要になるため、気持ちが悪い、吐き気がする、頭がぼーっとする、などの変化があればすぐお知らせください。なお、以前同様の薬の使用で具合が悪くなったことがある場合は、再度使用することでさらに強い副作用がでることが予想されます。担当医や看護師が何回かアレルギーについては伺いますが、ご自身も心あたりがある場合は必ず申告してください。
- ・**テープによるかぶれなどの皮膚障害:**照射後は軟膏を塗布していただきますが、軟膏やテープによりかぶれや水ぶくれなどの皮膚障害を起こすことがあります。使用中かゆみや赤みが強くなるなどありましたら、使用を中止し、ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

費用 (詳細:レーザー自費治療価格表を参照してください)

- ・保険適応の病気もありますが、美容が目的のレーザー治療は保険適応外になります。レーザー照射範囲や数によって変わりますが、1回につき5,500円から数万円の費用がかかります。

※万が一、合併症が起きた場合には最善の処置を行います。なお、その際の医療は通常の保険診療となり患者さんの負担になりますのでご了承ください。

代替可能な治療とそのリスク

- 治療:手術での切除 (大きい病変は適応にならず、手術痕が残る)
液体窒素による冷凍凝固療法(乳児血管腫/莓状血管腫の場合)
(瘢痕になることがある、色素沈着が残る)
ヘマンジオルシロップ内服(乳児血管腫/莓状血管腫の場合)
(適応時期が限られる、入院が必要、低血糖など重篤な副作用のリスクがある)
しみに内服薬(保険適応)、ハイドロキノロンクリーム(保険外治療)

治療を行わなかった場合に予想される経過

血管腫や皮膚の赤み、しみやあざによって生命に危険が及ぶことはごくまれです。
(巨大な乳児血管腫(莓状血管腫)では起こりえます)。したがって、上記のリスクや合併症をご理解頂き、同意いただいた場合にのみ、治療を受けていただくことが可能です。

臨床写真の取り扱いについて

臨床写真は他の皮膚科医師との治療方針の相談や引き継ぎをする際に必要になる重要な情報です。また、治療経過の記録としても重要なものとなります。その取り扱いには皮膚科医師以外が容易にアクセスできない方法で保存され、個人情報の漏洩がないよう十分な配慮がなされております。特別な理由がない限り、撮影へのご協力をお願い致します。撮影する際には都度説明しますので、希望されない場合は申し出てください。あなたの意思を尊重します。

セカンドオピニオン

現在のあなたの病状や治療方針について、他院の医師の意見を求めることができます。必要な書類をお渡しますので、お申し出ください。

同意の撤回について

同意書を提出された後でも、お申し出があれば治療を中止することができます。その際は、同意の撤回に関する文書を用意いたしますので下記まで連絡してください。なお、実施直前までにご意思を撤回されましても、以後の診療において不利益を受けることはありません。

その他、治療についての希望等

ご不明な点やご心配なことがありましたら、診察の際に遠慮なく申し出ください。

ご予約・お問い合わせ

- 一般診療のご予約・変更（予約センター）

TEL : 0476-35-5576

（月曜日～土曜日 8:30～17:30 ※祝日は除く）

- その他のお問い合わせ

TEL : 0476-35-5600（代表）

■ レーザー自費治療価格表

分類	項目	備考	金額
診療料	初診料		¥3,300
	再診料		¥1,100
レーザー照射	老人性色素斑	1ヶ所	¥5,500
		2～3ヶ所	¥11,000
		4～5ヶ所	¥22,000
	雀卵斑	頬部 片側	¥22,000
		頬部 両側	¥44,000
	色素母斑	1cm ² まで	¥16,500
		1cm ² 増える毎(7cm ² まで)	¥5,500
		8cm ² 以上～16cm ² 未満	¥52,140
		16cm ² 以上～64cm ² 未満	¥63,800
	6回目以降Qスイッチ (外傷性色素沈着) (太田母斑)	64cm ² 以上	¥86,900
		4cm ² 未満	¥22,000
		4cm ² 以上～16cm ² 未満	¥26,070
		16cm ² 以上～64cm ² 未満	¥31,900
	炭酸ガスレーザー (汗管腫) (表皮母斑) (脂漏性角化症)	64cm ² 以上	¥43,450
		1cm ² まで	¥11,000
		1cm ² 増える毎(3cm ² まで)	¥5,500
		4cm ² 以上～16cm ² 未満	¥26,070
	肥厚性瘢痕 ケロイド	16cm ² 以上～64cm ² 未満	¥31,900
		64cm ² 以上	¥43,450
		1ヶ所	¥3,300
		全体(前胸部・肩周り等)	¥5,500
	酒さ	小範囲(鼻周り等)	¥3,300
		顔全体	¥5,500
にきび跡	小範囲	¥3,300	
	顔全体	¥5,500	
下眼瞼脱脂術 (炭酸ガスレーザー)	片側	¥165,000	
	両側	¥330,000	
その他	入院料	保険点数の100%	税別
	麻酔料	保険点数の100%	税別
	医療材料	保険金額の100%	税別
	投薬料	保険点数の100%	税別

(税込)

令和2年8月1日